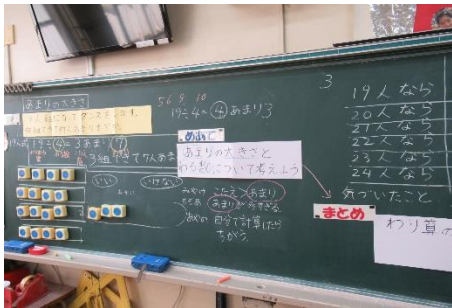


令和元年度努力点最終報告② [C・Dチーム]

令和2年 3月10日

【Cチームの取り組みの様子】 【「めあてをつかむ」→「まとめる」のつなげ方の工夫】



「めあて」と「まとめ」は対応していることが大切です。教師がわざと誤答したことで、「あまりの大きさとわる数」がめあてだと意識付けさせることができました。まとめの書き始めを「わり算のあまりは・・・」としたことで、すらすらとワークシートに記述する児童が多かったです。問題の横にめあてが提示してあるこに気付かせられると、さらによかったと思いました。

《(3-1 算数)の授業の様子》

【Cチームの取り組みの様子】 【「自分の考えをもつ」→「対話する」のつなげ方の工夫】



意見交換会で「海派」か「山派」かなど、多くの人に納得してもらえるような意見をグループ活動で考えました。グループで活発に対話するためには、自分の考えを予めもっておくことが大切です。そこで、事前に自分の意見を色分けして付箋に書きました。それをグループで相談して、似た意見や異なる意見に仕分けしながら、学習シートにまとめました。意見交換会で伝える優先順位についても話し合い、相談して決めることができました。

《(5-2 国語)の授業の様子》

【Cチームの取り組みの様子】 【「めあてをつかむ」→「考えをもつ」のつなげ方の工夫】



各活動の最初にデモンストレーションをし、活動内容や目指す姿を実演することで、めあてをつかませました。めあてを基にして、様々なゲームに取り組みながら、表現を繰り返し練習しました。覚えた表現を使って、ペアの友達にインタビューをしたり自分が行きたい国を伝えたりしました。友達の意見を聞いた後にリアクションをしており、会話のリズムを作ることもできました。

《(6-2 外国語)の授業の様子》

【今年度の取り組みの成果と課題】

〈成果〉

- ・板書やワークシートを工夫し、付箋の効率的な使い方、デモンストレーションによる実演など、手立てとして取り組んだことは、「自分の考えをもつ」「対話する」「まとめる」に関して有効でした。
- ・ハンドサインを取り入れたことで、だれでも話し合いに参加することができました。

〈課題〉

- ・ハンドサインだけではなく、最終的には意見を発表できるようになることを目指していこうと思います。
- ・付箋をまとめたり、仲間分けしたりして活用できるようになると、話し合いがさらに深まります。

【Dチームの取り組みの様子】 【「自分の考えをもつ」ための工夫】



《(すみれ組 国語)の授業の様子》

あったらいいなと思うオリジナルのひみつ道具を創作し、くわしい内容を考えました。そして、友達と交流することで、より分かりやすい説明にする活動を行いました。

子どもたちは、教師の問いかけに答えながら自分の考えたひみつ道具の説明を、吹き出し型の付箋にたくさん書いていくことができました。また、ひみつ道具の絵を見て質問してもらうことで、説明の足りない部分に気付き、アイデアを付け加えることができました。

【Dチームの取り組みの様子】 【「対話する」→「まとめ」のつなげ方の工夫】



《(3-2 社会)の授業の様子》

子どもたちは、いくつかの昔の道具の中から興味をもった道具を選び、調べたいと思うことや疑問に思うことを考えました。

さらに、自分が調べたいと思ったことを、同じ道具を選んだ友達と交流することで考えが深まり、道具の使い方や外見の特徴についてだけではなく、昔の人の暮らし方にまで視点を広げることができました。そして、それをもとに、これからクラス全体で学んでいく学習問題を考えることができました。

【今年度のまとめと来年度に向けた課題】

〈成果〉

- ・どの実践においても導入を工夫したことで、主体的に学ぶ意欲を高めることができました。
- ・前期の実践では、「対話」から「まとめ」のつながりがうまくできませんでした。後期実践では「めあて」を意識させて、その解決のための「対話」をすることで、授業で考えたこと、学んだことを生かした「まとめ」につなげることができました。

〈課題〉

- ・低学年や、特別支援学級では、友達の意見を自分の考えに取り入れることが難しいところがありました。いろいろな場面で、たくさんの意見や選択肢から自分にとってふさわしいものを選んだり、友達と話し合いながら何かを作り上げていったりする体験を積み重ねていくと良いと思えました。